

西濃農林事務所の普及活動状況 令和6年9月

今月の重点活動

■ナシ 施設栽培でのIPMの取り組み

高温年は、ナシではハダニ類の寄生が特に問題となっている。ハダニ類が葉に寄生すると果実の収量・品質の低下に繋がるだけでなく、著しく寄生すると、早期落葉し、来年の生育へも影響を及ぼす。

令和5年から、海津市の（株）コタニアが、遊休トマトハウス内において栽培を開始し、露地栽培に比べさらにハダニの寄生が顕著となるため、施設栽培でのハダニ類に対するIPMの取り組みを行ってきた。9月9日には、本年4回目のカブリダニ剤の放飼を行った。

これまでの結果から、露地栽培に比べIPMの難しさを実感しているが、次作には、施設栽培でのIPM体系の確立を目指していく。



【カブリダニ剤放飼の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー 西濃ブロック第3回全体会の開催

9月10日、西濃総合庁舎で西濃ブロック女性農業経営アドバイザーの第3回全体会を開催した。

会議では、10月完成予定の西濃ブロックPRチラシ、11月の西濃ブロック研修会の具体的内容について検討した。また、11月の担い手リーダー「岐阜県農業の未来を語る会」で、女性農業経営アドバイザーから「ぎふ農業・農村基本計画」の見直しに関する意見を述べるため、農林事務所からポイントを説明し、西濃ブロックの意見集約を支援した。

県連の行事としては、10月9日にGLAMA視察研修が開催される。農林事務所では女性農業経営アドバイザーの活動を支援していく。



【全体会の様子】

■冬春トマト 農業簿記データ活用研修会の開催

9月20日、農業経営課主催で、農業簿記データを分析・診断し経営改善に活用するための研修会が、海津トマト部会員を対象に行われた。西濃農林事務所は開催支援を行った。

トマト生産者13名が参加し、(一社)農業利益創造研究所の平石氏から、農業簿記データに基づいた経営診断と診断結果の見方についての解説が行われた。参加した生産者は各自の経営状態を把握し、各々の抱える経営課題について理解を深めていた。

農林事務所は、経営診断結果を活用した個別支援などを通して、自ら経営改善を考え、実践できる農業者の育成に取り組んでいく。



【研修会の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■大豆・海津市営農組織 大豆奨励品種決定現地調査

海津市の営農組織は今年「大豆奨励品種決定現地調査」の事業により新品種「そらみのり」の現地適応性の調査に取り組んでいる。調査では営農組織による栽培管理の状況、主茎長や節数などの生育量、播種時期、開花期などの生育ステージの日付を調査している。

7月21日播種の「そらみのり」と慣行品種「フクユタカ」をJAにしみの営農指導員と連携して定期的に現地調査し、年末の収穫調査と併せ、令和6年産の現地実証を整理、検討する計画である。



【大豆の主茎長の測定】

■大豆 採種ほ場で『開花期』審査を実施

9月6日、海津市内において、岐阜県種子審査員に任命された農林事務所農業普及課職員と関係機関担当者により、大豆採種ほ場の開花期審査を実施した。審査は優良種子の確保を目的に、県が定めた審査マニュアルに従い実施した。

海津市では、市内2法人により大豆の主要品種「フクユタカ」の原種ほと一般種子ほで約75ha設置されている。今後、11月中旬頃に成熟期審査を実施する予定である。



【大豆ほ場審査（開花期）】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 高温対策実証圃（低温暗黒処理）の設置

近年の夏秋時期の高温により、いちごの花芽分化が遅れるため、農林事務所は管内いちご農家7戸（美濃娘4・濃姫2戸・とちおとめ1戸）において、予冷库を利用した低温暗黒処理の実証圃を設置した。

今後、農林事務所は処理方法の違いによる効果を検証し、次年産での普及拡大を目指す。



【低温暗黒処理の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■花き FBC地方審査の実施

9月6日、西濃・揖斐管内の3つの小学校を対象に、FBC（フラワー・ブーボー・コンクール）の地方審査を実施した。農林事務所（西濃・揖斐）の他、西濃教育事務所、中日新聞社が審査員として出席した。

7月からの高温や台風10号による大雨の影響で花壇の生育状況が懸念されたが、生育状況は良く、また各校とも特色ある素晴らしい取り組みもみられた。生徒からの取り組み発表を受け、審査員が花壇の管理状況や地域住民との関わりなどの審査項目を評価した結果、3校全てを中央審査に推薦することとなり、9月下旬に中央審査が行われた。

今後も学校花壇の取り組みが継続できるよう、農林事務所として支援を継続していく。



【審査の様子】